

資 料 提 供	
令和元年11月19日	
担当課 (担当者)	県立博物館 学芸課 (福代 宏)
電 話	0857-26-8044

県立博物館では民俗学の講演会(日常学としての民俗学—柳田國男と橋浦泰雄から考える—)を開催します。

1 趣旨

かつて民俗学者の柳田國男は『明治大正史世相篇』(1931年)という書物で、明治・大正時代の日本人の暮らし方の変化(生き方の変化)を生き生きと描き出しました。その柳田が日本の民俗学を形成する上で、裏で支え続けていったのが、本県岩美町出身の橋浦泰雄でした。二人には共通点が多く、橋浦は柳田の並走者として多方面で活躍しますが、二人のもっとも根本にあるのは、「日常」を見つめることであり、自分たち「生活」のなかの、足元の歴史を照らすことでした。

この講演会では、民俗学本来の、身の回りの日常的でありふれた事象に再び着目して、現代社会に見られる事例を、日常学としての民俗学の観点から取り上げながら、現在学としての民俗学のあり方をお話いただきます。

2 日時 令和元年12月8日(日)午後2時~3時30分

3 会場 鳥取県立博物館 講堂

4 講師 岩本通弥(東京大学教授)

5 対象 一般

6 定員 250名

7 申込み 不要

8 参加(聴講)料 無料

9 とっとり県民カレッジ連携講座